

【概 要】

平成22年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（北海道）【確定値】

本調査は、平成22年度間の公立学校における暴力行為、いじめ、不登校、中途退学の状況を平成23年度に調査し公表するものです。

また、本数値には、札幌市立学校を含んでいます。

基本となる学校数及び児童生徒数

	公立学校総数		在籍児童生徒数	
	平成22年度	平成21年度	平成22年度	平成21年度
小学校	1,241 校	1,277 校	272,722 人	276,744 人
中学校	658 校	665 校	140,981 人	144,093 人
高等学校	257 校	263 校	114,273 人	115,107 人
小・中・高等学校の計	2,156 校	2,205 校	527,976 人	535,944 人
特別支援学校	61 校	61 校	4,783 人	4,748 人
合 計	2,217 校	2,266 校	532,759 人	540,692 人

平成22年5月1日現在の数値である。
いじめにおける高等学校の学校総数については、全定併置校はそれぞれにカウントしており、293校となる。

結果の概要

1 公立小・中・高等学校の暴力行為の発生件数

	平成22年度		平成21年度	
	発生件数	1,000人当たりの発生件数	発生件数	1,000人当たりの発生件数
小学校	55件	0.2	89件	0.3
中学校	1,332件	9.4	1,054件	7.3
高等学校	424件	3.7	344件	3.0
計	1,811件	3.4	1,487件	2.8

小学校 ~前年度に比べ、34件減少 (89 55)している。
 中学校 ~前年度に比べ、278件増加 (1,054 1,332)している。
 高等学校 ~前年度に比べ、80件増加 (344 424)している。
 全体 ~前年度に比べ、324件増加 (1,487 1,811)している。

2 公立小・中・高等学校、特別支援学校のいじめの認知件数

	平成22年度		平成21年度	
	認知件数	1,000人当たりの認知件数	認知件数	1,000人当たりの認知件数
小学校	2,148件	7.9	1,627件	5.9
中学校	1,964件	13.9	1,444件	10.0
高等学校	528件	4.6	300件	2.6
特別支援学校	10件	2.1	19件	4.0
合計	4,650件	8.7	3,390件	6.3

小学校 ~前年度に比べ、521件増加 (1,627 2,148)している。
 中学校 ~前年度に比べ、520件増加 (1,444 1,964)している。
 高等学校 ~前年度に比べ、228件増加 (300 528)している。
 特別支援学校 ~前年度に比べ、9件減少 (19 10)している。
 全体 ~前年度に比べ、1,260件増加 (3,390 4,650)している。

3 公立小・中学校の不登校児童生徒数

	平成22年度		平成21年度	
	不登校児童生徒数	在籍比	不登校児童生徒数	在籍比
小学校	742人	0.27%	763人	0.28%
中学校	3,376人	2.39%	3,421人	2.37%
計	4,118人	1.00%	4,184人	0.99%

小学校 ~前年度に比べ、21人減少 (763 742)している。
 中学校 ~前年度に比べ、45人減少 (3,421 3,376)している。
 全体 ~前年度に比べ、66人減少 (4,184 4,118)している。

4 公立高等学校の不登校生徒数

	平成22年度	平成21年度
不登校生徒数	853 人	716 人
在籍比	0.75 %	0.62 %

前年度に比べ、137人増加 (不登校生徒数 716 853)している。
 (在籍比 0.62 0.75)

5 公立高等学校の中途退学者数

	平成22年度	平成21年度
中途退学者数	1,880 人	1,934 人
中途退学率	1.6 %	1.7 %

前年度に比べ、54人減少 (中途退学者数1,934 1,880)している。
 (中途退学率 1.7 1.6)

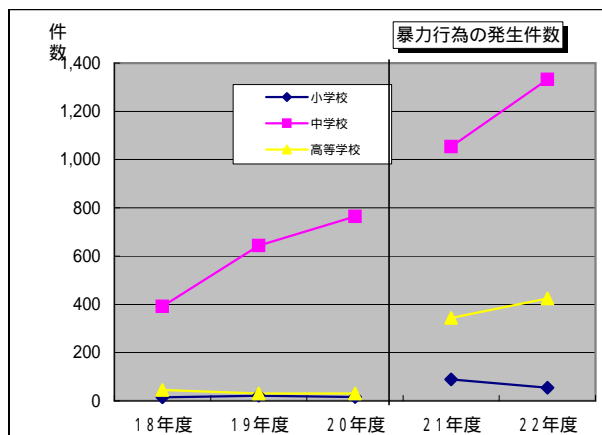
公立小・中学校、高等学校の暴力行為

平成21年度より、「暴力行為」については、未然防止、早期発見・早期対応の取組が重要であることから、事案の軽重にかかわらず、調査対象とすることとした。

1 暴力行為の発生件数の推移

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
小学校	15	21	16	89	55
中学校	392	644	764	1,054	1,332
高等学校	45	30	31	344	424
計	452	695	811	1,487	1,811

平成18～20年度は参考
 経年変化
 前年度に比べ、小学校では減少、中学校及び高等学校では増加している。
 前年度との比較
 小学校 ~前年度に比べ 34件減少している。
 中学校 ~前年度に比べ 278件増加している。
 高等学校 ~前年度に比べ 80件増加している。
 全体 ~前年度に比べ 324件増加している。



2 学校種別暴力行為の発生学校数及び発生件数

		平成22年度			平成21年度		
		発生学校数		発生件数	発生学校数		発生件数
		学校数	発生率		学校数	発生率	
小学校	学校内	18校	1.5%	50件	23校	1.8%	77件
	学校外	5校	0.4%	5件	6校	0.5%	12件
	小計	-	-	55件	-	-	89件
中学校	学校内	159校	24.2%	1,173件	173校	26.0%	921件
	学校外	92校	14.0%	159件	82校	12.3%	133件
	小計	-	-	1,332件	-	-	1,054件
高等学校	学校内	126校	49.0%	366件	124校	47.1%	297件
	学校外	42校	16.3%	58件	34校	12.9%	47件
	小計	-	-	424件	-	-	344件
合計	学校内	303校	14.1%	1,589件	320校	14.5%	1,295件
	学校外	139校	6.4%	222件	122校	5.5%	192件
	小計	-	-	1,811件	-	-	1,487件

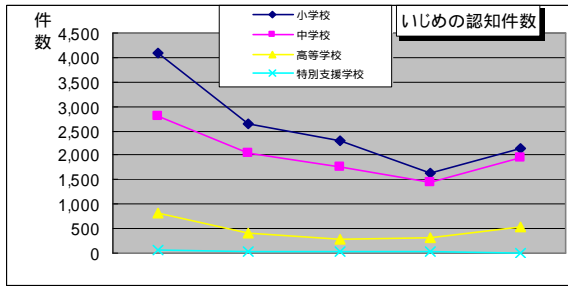
発生率 = 発生学校数 / 公立学校総数 × 100

3 暴力行為の種別発生学校数及び発生件数

		平成22年度		平成21年度	
		発生学校数	発生件数	発生学校数	発生件数
対教師暴力	小学校	5校	7件	6校	15件
	中学校	61校	221件	46校	112件
	高等学校	25校	43件	27校	41件
	合計	91校	271件	79校	168件
生徒間暴力	小学校	15校	34件	20校	51件
	中学校	202校	687件	193校	584件
	高等学校	132校	261件	119校	189件
	合計	349校	982件	332校	824件
対人暴力	小学校	1校	1件	1校	1件
	中学校	28校	65件	27校	32件
	高等学校	21校	23件	10校	11件
	合計	50校	89件	38校	44件
器物損壊	小学校	6校	13件	9校	22件
	中学校	89校	359件	97校	326件
	高等学校	51校	97件	61校	103件
	合計	146校	469件	167校	451件

公立小、中学校、高等学校、特別支援学校のいじめ

1 いじめの認知件数の推移



	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
小学校	4,099	2,651	2,285	1,627	2,148
中学校	2,809	2,061	1,748	1,444	1,964
高等学校	825	404	275	300	528
特別支援学校	52	28	22	19	10
計	7,785	5,144	4,330	3,390	4,650

本調査におけるいじめの定義
個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立つて行うものとする。

「いじめ」とは、「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。」とする。

なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

旧定義

「いじめ」とは、「自分より弱い物に対して一方的に、身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの。」

経年変化

いじめの認知件数は、H18より減少してきたが、H22年度は小・中・高等学校において増加している。

前年度との比較

小学校	～前年度に比べ	521件増加している。
中学校	～前年度に比べ	520件増加している。
高等学校	～前年度に比べ	228件増加している。
特別支援学校	～前年度に比べ	9件減少している。
全体	～前年度に比べ	1,260件増加している。

2 学校種別いじめの認知学校数及び認知件数、在籍比

	認知学校数				認知件数		在籍比	
	学校数		認知率		平成22年度	平成21年度	平成22年度	平成21年度
	平成22年度	平成21年度	平成22年度	平成21年度				
小学校	463校	325校	37.3%	25.5%	2,148件	1,627件	0.79	0.59
中学校	380校	314校	57.8%	47.2%	1,964件	1,444件	1.39	1.00
高等学校	160校	115校	54.6%	38.1%	528件	300件	0.46	0.26
特別支援学校	6校	6校	9.8%	9.8%	10件	19件	0.21	0.40

認知率 = 認知学校数 / 公立学校総数 × 100

3 いじめの解消状況

	いじめが解消しているもの（解消率）		
	平成22年度	平成21年度	平成20年度
小学校	94.0%	95.0%	92.3%
中学校	88.6%	86.8%	85.3%
高等学校	90.0%	93.7%	79.3%
特別支援学校	80.0%	78.9%	90.9%
計	91.2%	91.3%	88.6%

4 いじめ発見のきっかけ（12項目から一つ選択）

学校種	順位	いじめ発見のきっかけ			
		平成22年度		平成21年度	
小学校		アンケート調査など学校の取組により発見	45.0%	アンケート調査など学校の取組により発見	49.4%
		学級担任が発見	20.6%	本人からの訴え	14.5%
		本人からの訴え	16.8%	学級担任が発見	14.4%
		当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	10.6%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	14.2%
		保護者（本人の保護者を除く）からの情報	3.0%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	3.1%
		児童生徒（本人を除く）からの情報	2.5%	児童生徒（本人を除く）からの情報	2.2%
		学級担任以外の教職員が発見	1.0%	学級担任以外の教職員が発見	0.9%
		学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.2%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.9%
		養護教諭が発見	0.2%	養護教諭が発見	0.2%
		地域の住民からの情報	0.0%	地域の住民からの情報	0.1%
		スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.1%
		その他（匿名による投書など）	0.0%	その他（匿名による投書など）	0.0%
中学校		アンケート調査など学校の取組により発見	35.4%	アンケート調査など学校の取組により発見	33.0%
		本人からの訴え	25.3%	本人からの訴え	28.8%
		学級担任が発見	18.8%	学級担任が発見	16.2%
		当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	8.8%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	12.1%
		学級担任以外の教職員が発見	4.4%	学級担任以外の教職員が発見	3.1%
		児童生徒（本人を除く）からの情報	4.2%	児童生徒（本人を除く）からの情報	3.1%
		保護者（本人の保護者を除く）からの情報	1.8%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	2.1%
		養護教諭が発見	1.0%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.6%
		学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.2%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.5%
		スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.1%	養護教諭が発見	0.3%
		地域の住民からの情報	0.1%	その他（匿名による投書など）	0.1%
		その他（匿名による投書など）	0.0%	地域の住民からの情報	0.1%

高等学校		アンケート調査など学校の取組により発見	38.1%	アンケート調査など学校の取組により発見	33.0%
		学級担任が発見	24.1%	本人からの訴え	30.3%
		本人からの訴え	22.3%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	11.0%
		学級担任以外の教職員が発見	3.8%	学級担任が発見	10.0%
		当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	3.8%	学級担任以外の教職員が発見	6.3%
		児童生徒（本人を除く）からの情報	3.6%	児童生徒（本人を除く）からの情報	4.0%
		養護教諭が発見	2.8%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	2.0%
		保護者（本人の保護者を除く）からの情報	1.1%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	1.3%
		学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.4%	養護教諭が発見	1.0%
		その他（匿名による投書など）	0.0%	その他（匿名による投書など）	0.7%
		スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.3%
	地域の住民からの情報	0.0%	地域の住民からの情報	0.0%	
特別支援学校		学級担任が発見	30.0%	本人からの訴え	42.1%
		学級担任以外の教職員が発見	30.0%	学級担任が発見	26.3%
		アンケート調査など学校の取組により発見	20.0%	児童生徒（本人を除く）からの情報	21.1%
		本人からの訴え	10.0%	学級担任以外の教職員が発見	10.5%
		当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	10.0%	養護教諭が発見	0.0%
		児童生徒（本人を除く）からの情報	0.0%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%
		養護教諭が発見	0.0%	アンケート調査など学校の取組により発見	0.0%
		スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	0.0%
		保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.0%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.0%
		地域の住民からの情報	0.0%	地域の住民からの情報	0.0%
		学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.0%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.0%
	その他（匿名による投書など）	0.0%	その他（匿名による投書など）	0.0%	

5 いじめの態様（9項目から複数選択）

学校種	いじめの態様				
	平成22年度		平成21年度		
小学校		冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	75.2%	冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	69.5%
		仲間はずれ、集団による無視をされる	19.8%	仲間はずれ、集団による無視をされる	24.1%
		軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	16.2%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	21.0%
		金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	4.3%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	6.8%
		嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	3.2%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	4.1%
		ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	1.3%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	3.3%
		その他	1.1%	金品をたかられる	0.5%
		金品をたかられる	0.3%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる	0.4%
		パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる	0.3%	その他	0.0%
中学校		冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	79.0%	冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	72.5%
		仲間はずれ、集団による無視をされる	17.1%	仲間はずれ、集団による無視をされる	20.2%
		軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	11.0%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	14.8%
		金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	5.4%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	7.5%
		パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる	4.2%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる	6.9%
		嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	3.7%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	4.6%
		ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	2.1%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	3.3%
		その他	0.9%	金品をたかられる	0.9%
		金品をたかられる	0.8%	その他	0.8%
高等学校		冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	74.8%	冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	54.0%
		仲間はずれ、集団による無視をされる	17.6%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる	24.3%
		パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる	13.4%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	18.3%
		軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	10.4%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	13.3%
		金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	4.4%	仲間はずれ、集団による無視をされる	13.0%
		嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	4.2%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	8.7%
		ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	3.2%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	8.3%
		その他	2.1%	金品をたかられる	6.3%
		金品をたかられる	1.3%	その他	3.7%
特別支援学校		冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	60.0%	冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	63.2%
		嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	30.0%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる	26.3%
		その他	20.0%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	21.1%
		軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	10.0%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	15.8%
		金品をたかられる	10.0%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	15.8%
		パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる	0.0%	仲間はずれ、集団による無視をされる	10.5%
		ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	0.0%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	10.5%
		金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	0.0%	金品をたかられる	0.0%
		仲間はずれ、集団による無視をされる	0.0%	その他	0.0%

公立小・中学校の不登校

1 不登校児童生徒数(公立小・中学校)

	平成22年度		平成21年度	
小学校	742人	0.27%	763人	0.28%
中学校	3,376人	2.39%	3,421人	2.37%
計	4,118人	1.00%	4,184人	0.99%

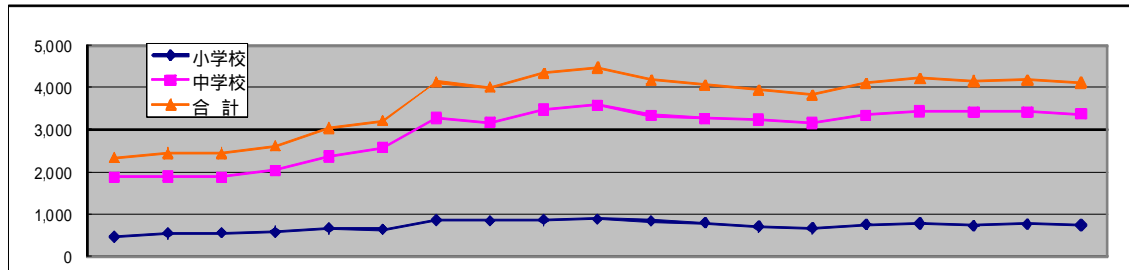
年間30日以上欠席した者のうち、主たる理由が「不登校」の者の数
「%」は在籍児童生徒数に対する不登校児童生徒数の割合

- 小学校 ~ 昨年度に比べ、21人減少(763→742)している。
- 中学校 ~ 昨年度に比べ、45人減少(3,421→3,376)している。
- 全体 ~ 昨年度に比べ、66人減少(4,184→4,118)している。

2 不登校の経年変化

(1) 平成4年度以降の不登校の状況

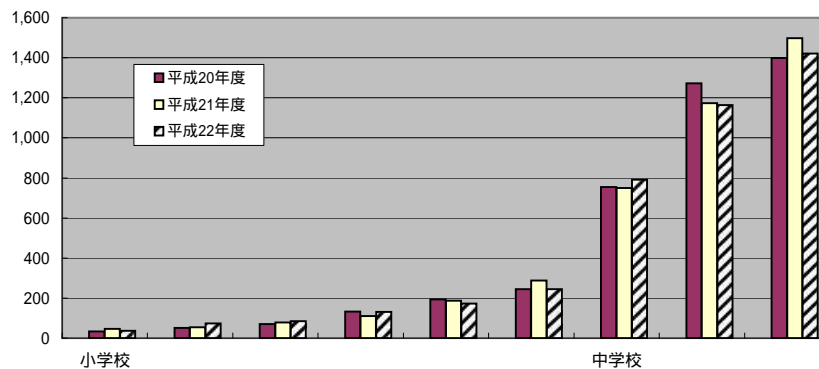
年度間に通算30日以上欠席児童生徒のうち不登校を理由とする児童生徒数の推移(平成4年度調査以降)



	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
小学校	460	551	560	576	671	641	856	841	864	886	840	792	707	667	752	780	726	763	742
中学校	1,882	1,890	1,882	2,040	2,376	2,577	3,277	3,173	3,474	3,588	3,339	3,268	3,238	3,157	3,349	3,437	3,424	3,421	3,376
合計	2,342	2,441	2,442	2,616	3,047	3,218	4,133	4,014	4,338	4,474	4,179	4,060	3,945	3,824	4,101	4,217	4,150	4,184	4,118

- (注1) 長期欠席児童生徒の調査は、昭和35年度から実施。
 (注2) 長期欠席のうち「不登校」を理由とした児童生徒数は昭和42年度から開始。
 (平成10年度までは項目名は「学校きらい」で、平成11年度から項目名を「不登校」に変更した)
 (注3) 平成3年度から「30日以上欠席した児童生徒」を対象として調査している。(それ以前は、50日以上)

(2) 過去3年間の学年別不登校児童生徒数の推移



学年	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
平成20年度	34	51	71	132	193	245	754	1,272	1,398
平成21年度	46	54	79	110	187	287	750	1,173	1,498
平成22年度	36	74	84	131	173	244	791	1,164	1,421

3 不登校となったきっかけと考えられる状況（19項目から考えられるもの全て選び回答）

学校 順位	不登校となったきっかけと考えられる状況				
	平成22年度		平成21年度		
小学校	本人に係る状況	不安など情緒的混乱	29.1%	(その他本人に関わる問題 46.3%)	
	本人に係る状況	無気力	21.8%	(親子関係をめぐる問題 15.9%)	
	家庭に係る状況	親子関係をめぐる問題	20.6%	(いじめを除く友人関係をめぐる問題 11.3%)	
	家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	13.1%	(その他 11.3%)	
	学校に係る状況	いじめを除く友人関係をめぐる問題	12.1%	(家庭の生活環境の急激な変化 8.3%)	
	本人に係る状況	病気による欠席	9.8%	(学業の不振 7.5%)	
	本人に係る状況	病気による欠席、あそび・非行、無気力、不安など情緒的混乱、意図的な拒否のいずれにも該当しない、本人に関わる問題	7.7%	(病気による欠席 6.9%)	
		その他	6.9%	(家庭内の不和 5.0%)	
	学校に係る状況	学業の不振	5.5%	(不明 4.2%)	
	学校に係る状況	教職員との関係をめぐる問題	4.7%	(教職員との関係をめぐる問題 3.9%)	
	本人に係る状況	意図的な拒否	4.6%	(入学、転編入学、進級時の不適応 2.0%)	
	学校に係る状況	入学、転編入学、進級時の不適応	4.0%	(いじめ 1.8%)	
	家庭に係る状況	家庭内の不和	3.8%	(学校のきまり等をめぐる問題 1.0%)	
		不明	3.0%	(クラブ活動、部活動等への不適応 0.3%)	
	学校に係る状況	学校のきまり等をめぐる問題	1.8%	/	
	学校に係る状況	いじめ	1.1%		
	本人に係る状況	あそび・非行	0.4%		
	学校に係る状況	進路にかかる不安	0.1%		
	学校に係る状況	クラブ活動、部活動等への不適応	0.1%		
中学校	本人に係る状況	不安など情緒的混乱	23.8%		(その他本人に関わる問題 48.7%)
	本人に係る状況	無気力	23.6%		(いじめを除く友人関係をめぐる問題 16.5%)
	学校に係る状況	いじめを除く友人関係をめぐる問題	16.1%	(学業の不振 9.9%)	
	本人に係る状況	病気による欠席	8.6%	(病気による欠席 7.9%)	
	本人に係る状況	あそび・非行	8.1%	(親子関係をめぐる問題 7.7%)	
	学校に係る状況	学業の不振	8.0%	(家庭の生活環境の急激な変化 5.5%)	
	家庭に係る状況	親子関係をめぐる問題	6.4%	(入学、転編入学、進級時の不適応 4.5%)	
	本人に係る状況	病気による欠席、あそび・非行、無気力、不安など情緒的混乱、意図的な拒否のいずれにも該当しない、本人に関わる問題	5.0%	(その他 3.7%)	
	家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	4.9%	(学校のきまり等をめぐる問題 3.3%)	
	本人に係る状況	意図的な拒否	4.6%	(家庭内の不和 3.1%)	
	家庭に係る状況	家庭内の不和	2.9%	(不明 3.0%)	
	学校に係る状況	入学、転編入学、進級時の不適応	2.3%	(いじめ 2.2%)	
		不明	2.3%	(教職員との関係をめぐる問題 1.6%)	
	学校に係る状況	学校のきまり等をめぐる問題	2.0%	(クラブ活動、部活動等への不適応 1.5%)	
	学校に係る状況	いじめ	1.8%	/	
		その他	1.3%		
学校に係る状況	教職員との関係をめぐる問題	1.2%			
学校に係る状況	クラブ活動、部活動等への不適応	1.2%			
学校に係る状況	進路にかかる不安	0.7%			

(注)・平成22年度調査から、区分が「学校に係る状況」、「家庭に係る状況」、「本人に係る状況」、「その他」、「不明」の5つの分類となった。

・前年度調査における「その他本人に関わる問題」は、本年度調査から区分「本人に係る状況」の中で、「あそび・非行」、「無気力」、「不安など情緒的混乱」、「意図的な拒否」、「病気による欠席」、「あそび・非行」、「無気力」、「不安など情緒的混乱」、「意図的な拒否」のいずれにも該当しない、本人に関わる問題」に分類された。

4 不登校児童生徒への指導結果状況

	小学校				中学校				計			
	人数		不登校児童に対する比率		人数		不登校生徒に対する比率		人数		不登校児童生徒に対する比率	
	H22	H21	H22	H21	H22	H21	H22	H21	H22	H21	H22	H21
指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒	267人	240人	36.0%	31.5%	1,087人	1,009人	32.2%	29.5%	1,354人	1,249人	32.9%	29.9%
指導中の児童生徒	475人	523人	64.0%	68.5%	2,289人	2,412人	67.8%	70.5%	2,764人	2,935人	67.1%	70.1%
うち登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童生徒	276人	142人	37.2%	18.6%	620人	582人	18.4%	17.0%	896人	724人	21.8%	17.3%
計	742人	763人			3,376人	3,421人			4,118人	4,184人		

5 「指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒」に特に効果のあった学校の措置

(16項目の学校の措置から選び回答)

順位	効果があつた学校の措置
小学校	登校を促すため、電話をかけたリ迎えに行くなどした。
	家庭訪問を行い、学業や生活面での相談にのるなど様々な指導・援助を行った。
	保護者の協力を求めて、家族関係や家庭生活の改善を図った。
	不登校の問題について、研修会や事例研究会を通じて全教師の共通理解を図った。
	教師との触れ合いを多くするなど、教師との関係を改善した。
	教育相談センター等の相談機関と連携して指導にあつた。
	全ての教師が当該児童生徒に触れ合いを多くするなどして学校全体で指導にあつた。
	様々な活動の場面において本人が意欲をもって活動できる場を用意した。
	スクールカウンセラー、相談員等が専門的に相談にあつた。
	保健室等特別の場所に登校させて指導にあつた。
	友人関係を改善するための指導を行った。
	授業方法の改善、個別の指導など授業がわかるようにする工夫を行った。
	教育相談担当の教師が専門的に指導にあつた。
	病院等の医療機関と連携して指導にあつた。
養護教諭が専門的に指導にあつた。	
その他	
中学校	家庭訪問を行い、学業や生活面での相談にのるなど様々な指導・援助を行った。
	登校を促すため、電話をかけたリ迎えに行くなどした。
	保護者の協力を求めて、家族関係や家庭生活の改善を図った。
	不登校の問題について、研修会や事例研究会を通じて全教師の共通理解を図った。
	全ての教師が当該児童生徒に触れ合いを多くするなどして学校全体で指導にあつた。
	スクールカウンセラー、相談員等が専門的に相談にあつた。
	保健室等特別の場所に登校させて指導にあつた。
	教師との触れ合いを多くするなど、教師との関係を改善した。
	友人関係を改善するための指導を行った。
	教育相談センター等の相談機関と連携して指導にあつた。
	様々な活動の場面において本人が意欲をもって活動できる場を用意した。
	養護教諭が専門的に指導にあつた。
	授業方法の改善、個別の指導など授業がわかるようにする工夫を行った。
	病院等の医療機関と連携して指導にあつた。
教育相談担当の教師が専門的に指導にあつた。	
その他	

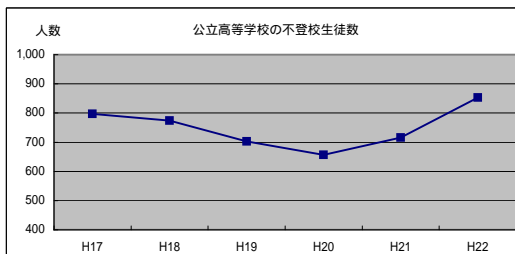
公立高等学校の不登校

1 公立高等学校における理由別長期欠席者数

年度	在籍者数(人)	不登校	経済的理由	病気	その他	計
平成22年度	114,273 (在籍比)	853 0.75%	30 0.03%	338 0.30%	238 0.21%	1,459
平成21年度	115,107 (在籍比)	716 0.62%	44 0.04%	314 0.27%	221 0.19%	1,295

年間30日以上欠席した者

2 公立高等学校における不登校の状況



<前年度との比較>

人数～前年度に比べ、137人増加している。
在籍比～前年度に比べ、0.13ポイント増加している。

【内訳】

全日制 461人(0.4%) (前年度 476人(0.4%))
定時制 392人(7.1%) (前年度 240人(4.4%))

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
不登校生徒数	797	774	703	657	716	853
在籍比	0.64%	0.64%	0.59%	0.56%	0.62%	0.75%

年間30日以上欠席した者のうち、
主たる理由が「不登校」の者の数
平成16年度から調査を実施

3 学年別不登校生徒数

	不登校生徒数					
	平成22年度			平成21年度		
	人数	在籍比	構成比	人数	在籍比	構成比
第1学年	342人	0.98%	40.1%	275	0.77%	38.4%
第2学年	183人	0.55%	21.5%	204	0.60%	28.5%
第3学年	68人	0.20%	8.0%	81	0.22%	11.3%
第4学年	8人	1.34%	0.9%	6	0.79%	0.8%
単位制	252人	2.40%	29.5%	150	2.14%	20.9%

4 不登校となったきっかけと考えられる状況(19項目から考えられるものをすべて選び回答。)

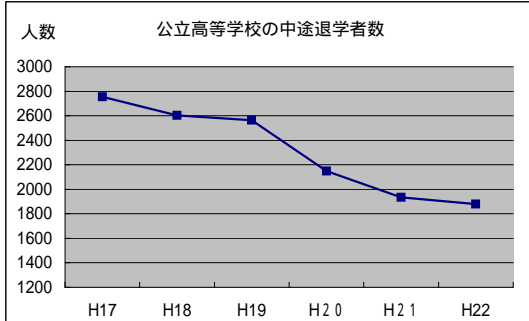
順位	不登校となったきっかけと考えられる状況				
	平成22年度		平成21年度		
	本人に係る状況	無気力	23.3%	(その他本人に関わる問題	37.8%)
	本人に係る状況	不安など情緒的混乱	19.0%	(いじめを除く友人関係をめぐる問題	19.4%)
	学校に係る状況	いじめを除く友人関係をめぐる問題	11.5%	(病気による欠席	9.6%)
	本人に係る状況	あそび・非行	10.2%	(学業の不振	9.5%)
	本人に係る状況	病気による欠席	7.9%	(進路にかかる不安	8.9%)
	本人に係る状況	意図的な拒否	6.8%	(入学、転編入学、進級時の不適応	8.1%)
	学校に係る状況	学業の不振	5.5%	(親子関係をめぐる問題	7.7%)
	学校に係る状況	進路にかかる不安	4.9%	(不明	5.2%)
	学校に係る状況	入学、転編入学、進級時の不適応	4.1%	(家庭の生活環境の急激な変化	4.7%)
	家庭に係る状況	親子関係をめぐる問題	4.0%	(学校のきまり等をめぐる問題	4.1%)
	本人に係る状況	病気による欠席、あそび・非行、無気力、不安など情緒的混乱、意図的な拒否のいずれにも該当しない、本人に関わる問題	3.3%	(家庭内の不和	4.1%)
	家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	3.2%	(クラブ活動、部活動等への不適応	3.5%)
	家庭に係る状況	家庭内の不和	2.6%	(その他	3.5%)
		その他	2.2%	(いじめ	2.9%)
		不明	1.6%	(教職員との関係をめぐる問題	2.5%)
	学校に係る状況	いじめ	1.4%		
	学校に係る状況	学校のきまり等をめぐる問題	1.2%		
	学校に係る状況	クラブ活動、部活動等をめぐる問題	0.6%		
	学校に係る状況	教職員との関係をめぐる問題	0.2%		

(注)・平成22年度調査から、区分が「学校に係る状況」、「家庭に係る状況」、「本人に係る状況」、「その他」、「不明」の5つの分類となった。

・前年度調査における「その他本人に関わる問題」は、本年度調査から区分「本人に係る状況」の中で、「あそび・非行」、「無気力」、「不安など情緒的混乱」、「意図的な拒否」、「『病気による欠席』」、「あそび・非行」、「無気力」、「不安など情緒的混乱」、「意図的な拒否」のいずれにも該当しない、本人に関わる問題」に分類された。

公立高等学校の中途退学

1 公立高等学校における中途退学の状況



<経年変化>

過去7年間、中途退学者数は減少傾向が続いている。
なお、在籍比については、昨年度に引き続き減少した。

<前年度との比較>

人数 ~ 前年度に比べ、54人減少している。
在籍比 ~ 前年度と比べ、0.1ポイント減少している。

【内訳】

全日制 1,299人（1.2%）（前年度1,398人（1.3%））
定時制 581人（11.0%）（前年度 536人（9.8%））

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
中途退学者	2,604	2,565	2,390	2,149	1,934	1,880
中途退学率	2.1	2.1	2.0	1.8	1.7	1.6

2 学年別中途退学者数

	中途退学者数					
	平成22年度			平成21年度		
	人数	中退率	構成比	人数	中退率	構成比
第1学年	1,036人	3.0%	55.1%	1,111人	3.1%	57.4%
第2学年	535人	1.6%	28.5%	503人	1.4%	26.0%
第3学年	191人	0.6%	10.2%	235人	0.7%	12.2%
第4学年	15人	2.5%	0.8%	13人	1.7%	0.7%
単位制	103人	1.0%	5.5%	72人	1.0%	3.7%

3 中途退学となった理由（8項目の主たる理由から選び回答）

順位	中途退学となった理由			
	平成22年度		平成21年度	
	進路変更	39.8%	進路変更	41.6%
	学校生活・学業不適合	39.8%	学校生活・学業不適合	36.5%
	家庭の事情	5.1%	学業不振	5.0%
	学業不振	4.7%	病気が死亡	4.7%
	問題行動等	4.3%	問題行動等	4.4%
	病気が死亡	3.7%	家庭の事情	4.0%
	その他の理由	1.5%	その他の理由	2.0%
	経済的理由	1.1%	経済的理由	1.8%